



多摩六都科学館の概要

平成 30 年度版

多摩六都科学館組合

目 次

はじめに	1
1 設置の目的と設置者	2
2 建設の経緯と沿革	3
3 組織体制	4
4 運営形態としての一部事務組合	5
5 施設概要	5
6 運営形態と主な事業（指定管理者について）	10
7 利用者数及び開館日数	11
8 利用者調査による顧客の主な動向	12
終わりに	15
参考資料 1	16
参考資料 2	17
参考資料 3	18

はじめに

私たちの生活は、日々進展する科学や技術の成果と密接に結びついています。2014年のノーベル物理学賞を日本人研究者3人が共同受賞したことで知られる青色発光ダイオード（LED）により、街角の信号機やイルミネーション、家庭の照明に数多く活用されています。LEDの発光は、電子のエネルギーを直接光エネルギーに変換するため、熱に依存する電球等と比べて格段に効率がよく、長寿命で省エネ効果が高いといわれています。平成24年度にリニューアルした多摩六都科学館プラネタリウムの光学式投影機にも、大型ドーム用機種としては世界で初めて高輝度LED光源が採用され、従来に比べ消費電力は約2分の1、寿命は15倍となりました。高輝度LEDの光の特性を活かし、従来のプラネタリウムよりシャープで明るい1億4,000万個の星の輝きを再現しています。プラネタリウムの星を見て、感動し、興味を持ってもらうことで、実際の星空に目を向けてもらうために、星の大集団である天の川の星々まで微細に表現する「リアルな星空」にこだわった結果、「世界一進んだプラネタリウム」と認定されました。プラネタリウムを製作した株式会社五藤光学研究所は、多摩地域（府中市）に本社があって、地域の先端技術の結晶がドームにまばゆい星空を再現しています。

東京の多摩地域には、国立天文台（三鷹市）があり、すばる望遠鏡やアルマ望遠鏡による最新鋭の宇宙像が提供されています。また、以前、西東京市には東京大学原子核研究所・宇宙線研究所があって、当時世界最先端の性能の加速器による実験が行われ、日本の原子核物理学の拠点として全国から若い研究者が寄り集まりました。かつてこの地で、ノーベル物理学賞受賞者の小柴昌俊、益川敏英、梶田隆章の各博士が研究に励んでいたことでも知られています。北多摩には、物理・天文学以外にも、各種の研究機関や大学、企業の研究所などがあり、科学になじみ深い地域である一方、奥多摩山地や狭山丘陵を後背地とする豊かな自然も見られます。都心に近く、交通の便も良いことから、住環境として優れており、さまざまな市民の活動が活発に行われています。私たちは、この地に暮らす市民が、より知的で豊かな生活を営めるよう、地域の価値や資源を科学の目で再発見し、科学館を拠点として多くの方が交流し、多摩六都圏域の魅力を発信し続けられることを目指し活動をしていきます。



1 設置の目的と設置者

多摩六都科学館・基本構想のコンセプトは、〈(科学・技術による) 緑と生活の調和〉です。宇宙・生命・生活・地域・地球の各レベルにおいて緑と生活の調和を提案し、それを実現することを目指します。「緑」で表される生物環境(自然、地球、宇宙)と「生活」で表される人間社会(生活技術、都市、人間社会)の共存のために、これからも科学及び科学技術が大きな役割を果たしていくものと考えられます。そのために、多摩六都圏域のみならず、地球規模、宇宙規模の観点で捉えていくことが重要になります。これらは、現在地域に住んでいる市民だけが直面する問題ではなく、次代にまで影響する長期的な課題であり、子どもたちにとっては特に重要なテーマであるといえます。

一方、生涯にわたる学習意欲の高まりを受けた「生涯学習社会」の到来により、圏域住民の要請に応え、圏域の地域的特性を生かした学習社会の形成を推進していくことが求められてきました。このような背景から、圏域住民の拠点的生涯学習・文化施設として科学博物館が検討され、平成6年3月に多摩六都科学館が開館しました。科学館には、常設展示室、科学学習室、企画展示室を備えるほか、世界最大級のドームに「世界一先進的」なプラネタリウムシステムを設置し、宇宙の不思議から身近な生活の科学まで、感動的なコンテンツで楽しさ、面白さを幅広く享受できます。新設された展示室内の「ラボ」では、コミュニケーションを重視した体験プログラムを充実させ、その場でできる実験や工作、観察を通して科学的なものの見方を学び、繰り返し利用者(リピーター)を育成しています。

多摩六都科学館の構想を立て、建設を行い、運営するのは、小平市、東村山市、清瀬市、東久留米市、西東京市(平成13年1月に保谷市と田無市が合併)で、当初6市であったため「多摩六都」という圏域の名称が付与されています。科学館の建設と用地取得は東京都の支援を受けて行われました。科学館の管理運営は、5市が共同で設置する多摩六都科学館組合によってなされ、多摩北部都市広域行政圏協議会の中核事業一つとなっています。

開館から23年が経ち、多摩六都圏域市民72万人の期待と要望に応じていくために、展示、学習室、プラネタリウムの教育普及機能をよりいっそう強化し、それを支える調査・研究活動や、資料の収集・保存にも力を注いでいます。調査・研究では、地域の自然に見られる多様な生物相を維持するための環境学習や、多摩地域の地史を化石や地質標本を通して明らかにする地質プログラムなどに特徴があります。

【多摩六都科学館の設置及び管理に関する条例第1条】

多摩六都科学館は、次代を担う子供たちの夢を育み、科学する心を養うとともに、各世代にわたる生涯学習の推進を図り、文化の振興に寄与するため、多摩六都科学館を設置する。

2 建設の経緯と沿革

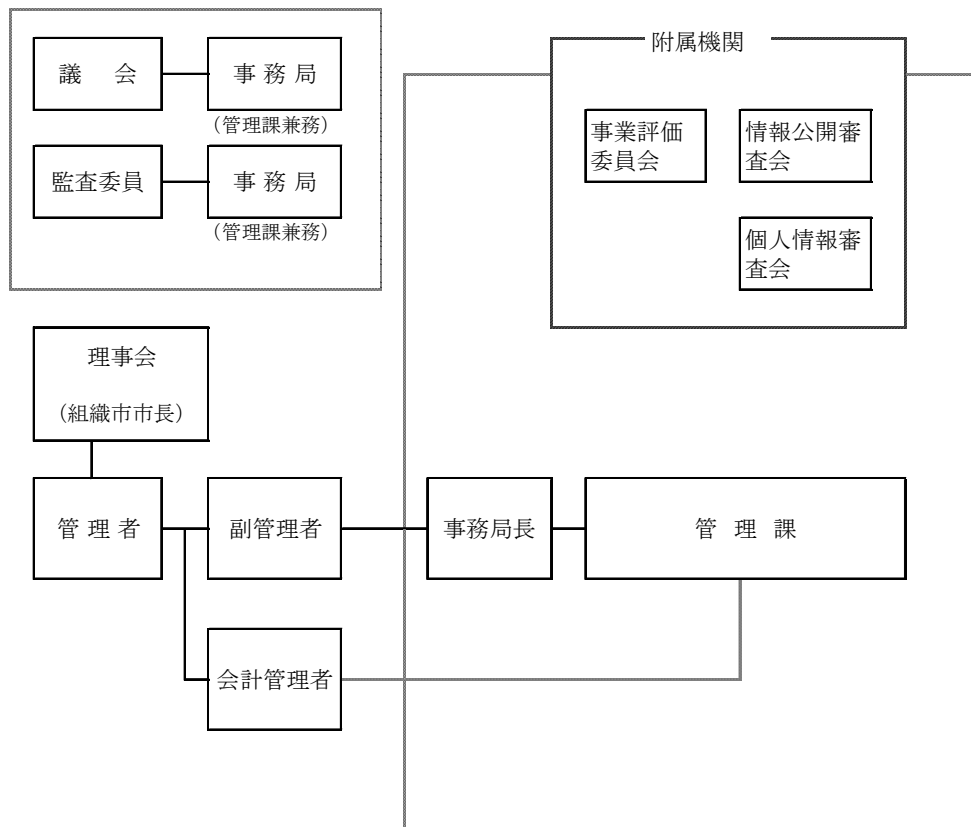
- 昭和 61 年 10 月 東京都に対し広域的施設の「都立施設」としての設置について 6 市長連名の要望書を提出(1)子供科学博物館(2)大規模スポーツ施設(3)大規模公園—のいずれかを検討することとした
- 昭和 62 年 1 月 東京都多摩北部地域の小平市、東村山市、田無市、保谷市、清瀬市、東久留米市の 6 市によって、多摩北部都市広域行政圏協議会を組織・設置
- 昭和 63 年 11 月 多摩北部都市広域行政圏協議会により子供科学博物館の建設を構想。東京都の財政支援により 6 市が共同で設置することになった
- 平成元年 7 月 (仮称) 子供科学博物館基本構想検討委員会(委員長 青木國夫)が発足し、「(仮称) 子供科学博物館基本構想書」を答申(平成 2 年 1 月)
- 平成 2 年 6 月 多摩北部広域子供科学博物館一部事務組合(後に「多摩六都科学館組合」に改称)を設置
- 10 月 基本設計を(株)環境デザイン研究所に委託
- 平成 3 年 1 月 建築・展示基本設計が完了
- 平成 5 年 12 月 多摩六都科学館(同年 8 月 3 日に名称決定)が竣工
- 平成 6 年 2 月 落成及び開館記念式典を実施
- 平成 6 年 3 月 3 月 1 日に開館。平成 5 年度はこの 1 か月間で約 3 万人の来館者を記録
- 平成 12 年 10 月 科学館ボランティア制度を発足
- 平成 13 年 1 月 1 月 3 日にリニューアルオープン(常設展示の約半数の更新及び休憩室の増築)
- 平成 14 年 12 月 多摩六都科学館運営協議会(会長 滝川洋二)を設置。「多摩六都科学館 運営基本方針報告書」(平成 15 年 7 月)が答申される
- 平成 15 年 6 月 小柴昌俊東大名誉教授のノーベル物理学賞授賞記念講演会を実施
- 平成 15 年 12 月 多摩六都科学館基本計画を策定
- 平成 16 年 1 月 秋篠宮同妃両殿下御視察(1 月 19 日)
- 平成 16 年 4 月 多摩六都科学館組合事業評価委員会(委員長 斎藤隆雄)を発足
- 平成 16 年 8 月 多摩六都科学館理科教育研究懇談会(座長 村山哲哉)を発足。平成 17 年 3 月の中間報告を経て、平成 18 年 11 月に報告書を提出
- 平成 19 年 10 月 建物の耐震性調査のため一時休館(10 月 19 日から 11 月 22 日まで)
- 平成 21 年 3 月 開館 15 周年記念式典・記念イベントの実施
- 平成 23 年 3 月 東日本大震災のため、3 月 15 日から 31 日まで臨時休館
- 平成 24 年 7 月 プラネタリウム・リニューアルオープン(10 月に「ケイロン II」が世界一の認定を受ける)
- 平成 25 年 3 月 展示リニューアルオープン(ラボを中核とした交流型の空間展開)
- 平成 26 年 3 月 開館 20 周年記念式典・記念イベントの実施
- 平成 27 年 7 月 多摩六都科学館駐車場の開設

3 組織体制

- 組合議会は、住民の代表機関として組合の行財政運営や事務処理が適正に行われているかチェックするための機関として設置され、構成市議会から各2人ずつ選出された議員の合計10人から構成されている。定例会を年2回（2月、10月）行う他、臨時会、議員研修会等を開催している。
- 理事会は組織市市長5人で構成され、理事会で選出された管理者と副管理者の下に執行機関として事務局（職員5人）がある。
- 会計管理者は西東京市会計管理者が兼務し会計事務を統括し、出納担当職員を置く。
- 監査委員は識見を有する者と議会選出の2人で、出納検査、定期監査等を行う。
- 事業評価委員会は科学館の管理運営に関する外部評価を行い、管理者に報告する。
- 科学館の管理運営は、指定管理者（株式会社乃村工藝社）が包括的に行っている。指定管理者は、館長を置くほか、統括マネージャー以下、経営管理、パブリックリレーション、アテンダント、自然・理工、天文の各グループ約50名のスタッフと、協力事業者の約30名のスタッフが、事業運営と施設管理業務、駐車場運営、ミュージアムショップ、カフェの運營業務を実施している。第2期指定管理者の指定期間は平成29年4月から7年間である（第1期は平成24年から5年間）。

（参考）組合の組織体制

多摩六都科学館組合組織図



◎管理者 丸山 浩一・西東京市長

副管理者 渡部 尚・東村山市長

4 運営形態としての一部事務組合

(1) 一部事務組合

多摩六都科学館組合は、地方自治法第 284 条第 2 項に規定する一部事務組合です。一部事務組合は、普通地方公共団体及び特別区が行う事務の一部を共同処理するために設けられている特別地方公共団体です。主に、病院、ごみ処理、上下水道、消防、福祉、学校、公営競技などの運営を行っていますが、科学館・博物館を複数の自治体が共同で設置しているのは他に類例がありません。多摩六都科学館組合は、多摩北部都市広域行政圏協議会を構成する小平市、東村山市、清瀬市、東久留米市、西東京市の 5 市が共同で設置し、各市の企画担当部署が所掌しています。

【地方自治法】（昭和 22 年法律第 67 号）

第 284 条 地方公共団体の組合は、一部事務組合及び広域連合とする。

2 普通地方公共団体及び特別区は、その事務の一部を共同処理するため、その協議により規約を定め、都道府県の加入するものにあつては総務大臣、その他のものにあつては都道府県知事の許可を得て、一部事務組合を設けることができる。（以下略）

(2) 多摩六都科学館組合の事務内容

平成 24 年度から指定管理者制度が導入されたことにより、従来、組合が直営で管理運営していた体制を改め、設置者として指定管理者を管理監督（モニタリング）し、組合組織市との連絡、調整を行っています。

【多摩六都科学館組合同規約第 3 条】

組合は、圏域住民の生涯学習の推進を図り、圏域の文化の振興に寄与することを目的として、多摩六都科学館の設置、管理及び運営に関する事務を共同処理する。

(3) 多摩六都科学館の設置、事業

次代を担う子どもたちの夢を育み、科学する心を養うとともに、各世代にわたる生涯学習の推進を図り、文化の振興に寄与することを目的に設置されています。

事業の詳細については、次章を参照してください。

5 施設概要

(1) 規模等

敷地面積.....15,704.12 m²
建築面積..... 3,639.22 m² 延床面積..... 6,868.44 m²
構 造..... 鉄筋コンクリート、一部鉄骨造り、地上 3 階地下 2 階
専用駐車場..... 収容台数 : 普通車 172 台・大型車 15 台

(2)施設

『《科学・技術による》緑と生活の調和』を基本コンセプトに以下の部門で構成

ア. 展示部門.....平成 25 年 3 月に常設展示室をリニューアルした。

Do！サイエンス！ を基本とした 多様な「学びの場」の創出

スタッフとの交流の場となる 4 つの「ラボ」で行われるプログラムにより、利用者が「今、ここでしかできない体験」を楽しめる構成となっている。

常設展示 ラボ 4 か所、つながるスポット 4 か所、
アイテム約 90 点



◎展示更新の基本方針（乃村工藝社の展示説明書による）

- 1 ひとが主体 → 多摩六都圏域の住民が集い、対話し、活動する展示空間
- 2 成長する → 常に活動し、蓄積され、変化する、完成することのない展示空間
- 3 連携する → 地域の人・モノ・コト、全ての構成員が参加し・創りあげる展示空間

場 所	名 称	テーマ	ラボ
第 1 展示室	チャレンジの部屋	「科学すること」の実体験	—
第 2 展示室	からだの部屋	自分・からだ	からだラボ
第 3 展示室	しくみの部屋	都市生活を支える技術・システム	しくみラボ

第4展示室	自然の部屋	身近な環境と生き物	しぜんラボ
第5展示室	地球の部屋	時空間を超えた地域の大地の成り立ち	ちきゅうラボ
プラネタリウム	初任展示コーナー	宇宙のすがた	—

◎**ラボ** 利用者とスタッフのコミュニケーション活動のハブとして、さまざまなアクティビティが提供される。交流と体験を通じた発見の場。

◎**つながるスポット** 地域の研究機関や大学、企業、NPO、ボランティアとの連携で様々な体験と情報発信を行う場。第2～第5展示室に配置。



撮影/大東正巳

イ. プラネタリウム部門.....プラネタリウム投影、大型映像上映

直径 27.5 メートルのドーム（世界第 4 位の大きさ）と、1 億 4 千万個の恒星像を投影できるプラネタリウム「ケイロンⅡ」（世界一先進的なプラネタリウム）によって、美しい星空と臨場感溢れる映像を組み合わせた番組を提供します。専門解説員による四季折々の星空解説が特徴で、話題の天文現象などを織り交ぜた個性あふれる生解説が人気となっています。また、科学をテーマにした番組、幼児を対象としたキッズプログラム、学習カリキュラムに基づく学校向けの学習投影などを実施し、番組制作システムを活用したオリジナル・コンテンツの制作にも取り組んでいます。

- プラネタリウム...光学式とデジタル式のハイブリッドプラネタリウム
- スクリーン.....直径 27.5mの傾斜型プラネタリウムドーム
- 客 席 数.....244 席（ペアシート 10 席、車椅子スペース 10 席）



ウ. 学習関連部門.....科学学習室、多目的室、実験ショーコーナー、図書コーナー、
レクチャールーム、イベントホール

科学学習室では、展示室のラボをさらに発展させたプログラムを実施し、実験、観察、工作などの幅広いテーマで教室を開催します。身近なものへの興味関心を呼び起こして科学の裾野を広げるとともに、繰り返し利用者（リピーター）の育成を目標に発展的な学習の場を提供します。専門のインタープリターのほか、外部から研究者や大学教授などを招いて多彩なテーマで実施します。

イベントホールは春、夏の特別企画展を実施する会場のほか、講演会の開催や学校団体の学習講座、幼稚園・保育園の学習プログラムを実施する場として活用しています。

実験ショーコーナーでは、科学マジックのようなスリリングを体験してもらいます。

エ. 共通部門.....ミュージアムショップ、カフェ、エントランスホール、
休憩室、休憩コーナー

ミュージアムショップでは科学館オリジナルグッズをはじめ、科学に関係した書籍や実験観察用品、おもちゃなどを販売し、お土産や記念品を買うことができます。平成 29 年春から営業を開始したカフェ（六都なおきち）では、地域の食材や安心・健康をテーマとして料理を手作りで提供し、人気を博しています。また、休憩室では持ち込みの食事ができ、大人がゆっくりと休息できるよう上質の椅子を配置したり、畳のコーナーを設けたりして、自然林の風景を見ながらくつろげる空間として好評をいただいています。

オ. 管理部門.....事務室、会議室、医務室、機械室等

カ. 付属設備.....コインロッカー36台、

〔貸し出し用〕車椅子4台、ベビーカー6台



☆科学館に積極的に関わり、運営を支えてくださっている様々な方々について、一部になりますがご紹介をします。

【多摩六都科学館ボランティア会】

平成12年に募集した市民により結成され、科学館を支援し、自主的な学習活動を展開しています。現在の会員は約150人で、ジュニアボランティア（小学生～高校生）からシニアまで幅広い年齢層と一緒に活動し、日々交流を深めています。常設展示室のほか、教室や野外でのフィールドワーク、児童館・小学校・科学の祭典へのアウトリーチ活動等多岐にわたっています。自主企画事業の実施のみならず日常業務の縁の下の力持ちまで、あらゆる活動の屋台骨を支えている頼もしいパートナーです。

【ロクトメンバーズ】

従来の「サイエンス友の会」を年間フリーパスと、ロクトメンバーズに分けて再編しました。ロクトメンバーズでは、限定プログラムや会員との交流によって、より付加価値の高い事業を進めます。

【多摩六都科学館運営連絡協議会】

科学館の事業運営について、地域の市民、企業、学校関係者、学識経験者などの委員が意見・情報交換を行い、地域との綿密な連携・協力体制を築くことを目的に実施しています。平成29年度からのテーマは「食と農」で、地域の事業者や大学、圏域の農家の方等が参加しています。

6 運営形態と主な事業（指定管理者について）

多摩六都科学館組合が公募し、選定した指定管理者によって包括的な管理運営がされています。指定管理者は、株式会社乃村工藝社（東京都港区台場2丁目3番4号 代表取締役社長 榎本 修次）で、平成29年度から7年間の指定期間となります。主に、教育普及活動、資料収集、調査研究といった学芸業務と、利用者との接点となるアテンダント業務、パブリックリレーション活動、施設・設備の保守管理業務、駐車場の運営業務、コミュニティカフェによる交流事業等を包括的に実施しています。

(1) 天文映像活動

各種プラネタリウム番組の投影と大型映像の上映、ドームでの特別イベントの実施、天体観望会（毎月1回）、天文クラブの運営。

(2) 展示活動

ラボを中心とした交流型展示の企画・運用と、独自企画による特別展示の開催。館内ワークショップ、サイエンスショーの実施。自然史系の調査・研究を推進。

(3) 参加体験型学習活動

ラボを発展させ、実験、観察、工作による科学的思考方法や自然現象の理解・発見の学習。自然観察会等のフィールド活動も実施。

(4) 地域の交流拠点活動

ボランティアとスタッフとの協働によるラボの運営、独自企画のワークショップ、科学学習教室の開催、出前講座の実施など、主体的な活動の支援を実施。多摩六都圏域を中心に、小・中学校、児童館、公民館等の公共施設へ出張し、館長の特別講座をはじめとして各種教室やサイエンスショーを実施。

(5) 研究機関・関連団体との連携活動

最先端の研究機関と連携した講演会やサイエンス・カフェの実施。

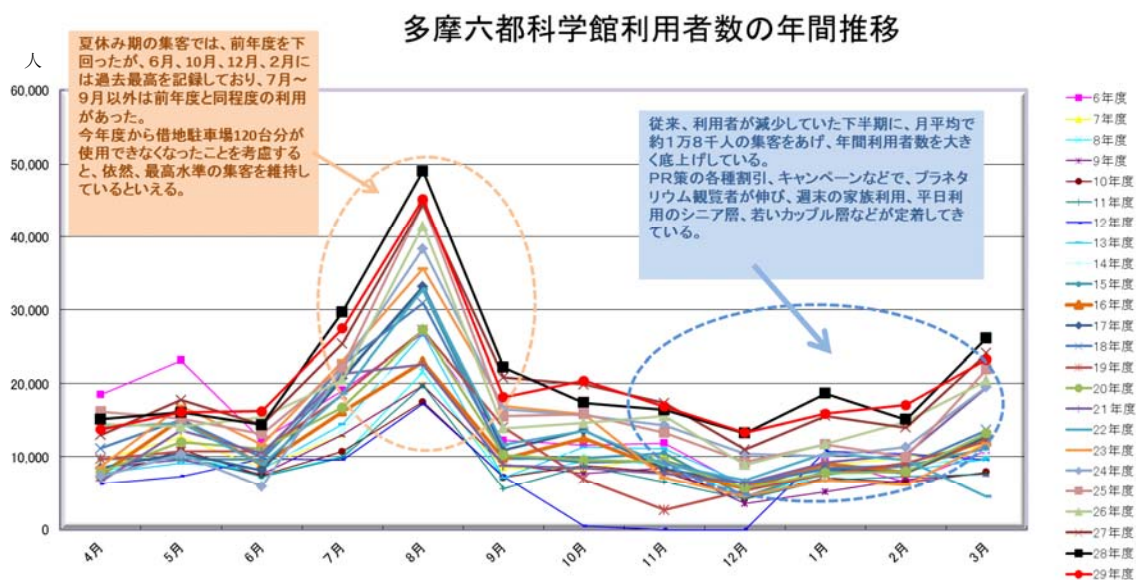


地域の施設に出張してイベントを行うボランティア・スタッフ

7 利用者数及び開館日数

平成 20 年度利用者数	138,780 人		
平成 21 年度利用者数	144,913 人		
平成 22 年度利用者数	154,558 人		
平成 23 年度利用者数	164,963 人		
平成 24 年度利用者数	181,715 人	(対前年度 16,752 人増 10.2%増)	指定管理制度開始
平成 25 年度利用者数	208,999 人	(対前年度 27,284 人増 15.0%増)	
平成 26 年度利用者数	206,076 人	(対前年度 2,923 人減 1.4%減)	
平成 27 年度利用者数	237,707 人	(対前年度 31,631 人増 15.3%増)	
平成 28 年度利用者数	253,471 人	(対前年度 15,764 人増 6.6%増)	第 1 期指定期間終了
平成 29 年度利用者数	<u>243,775 人</u>	(対前年度 9,696 人減 3.8%減)	第 2 期指定期間開始

○平成 29 年度の開館日数 300 日 (休館日数 65 日 : 月曜日、祝日の翌日、年末年始、機器保守点検等)



科学館の利用者は、毎年ゴールデンウィークと夏休み、春休み時期に集中し、反対に秋季・冬季に大きく減少する季節変動が激しく、運営上の大きな課題となっていました。平成 26 年度以降は、例年集客が減る秋～冬期で利用者が増加し、年間利用者数が 20 万人台を記録しています。

平成 29 年度は、借地駐車場 120 台が使用できなくなるハンデを跳ね返し、過去最高となった前年度の利用者数の勢いを維持することができて、夏期（6 月～9 月）を除き、4 か月（6 月、10 月、12 月、2 月）で過去最高の利用者数となっています。

8 利用者調査による顧客の主な動向

平成 29 年度の来館者へのアンケート調査から、当館利用者の特徴を示すデータを紹介します。(調査は、タブレット及び用紙記入による。通年で実施し、サンプル数は 件)

(1) 利用者の居住地

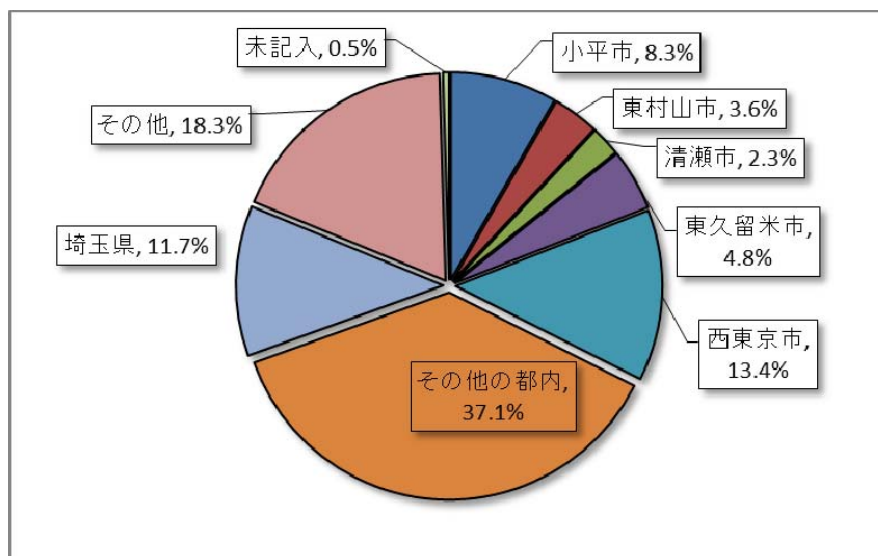
利用者に占める多摩六都圏域住民の比率は、類似の調査を含め概ね約 30～40%です。平成 24 年度以来入館者が大幅に増加していますが、相対的に圏域以外からの利用が増える傾向にあります。特に多摩地域の中央線沿線や、埼玉県南西部、23 区西部からの利用が増加しています。これは、多摩六都科学館の知名度・認知度が大きく向上したことに加え、学校団体等のプラネタリウム学習利用（校外学習）が伸びていることによります。

利用者の居住地	回答数	構成比
(1) 小平市	190	8.3%
(2) 東村山市	82	3.6%
(3) 清瀬市	53	2.3%
(4) 東久留米市	109	4.8%
(5) 西東京市	305	13.4%
(6) その他の都内	845	37.1%
(7) 埼玉県	267	11.7%
(8) その他	417	18.3%
未記入	11	0.5%
合計	2,279	100.0%

圏域市民が 32.4%

圏域外が増えたことで、平成 23 年度調査 (42.6%) から相対的に減少し、その他都内 (主に多摩地域、23 区西部)、都外が増加した。

都外合計 30.0% : 平成 23 年度調査 (16.9%) から年々増加しており、域外からの訪問者が増えている。

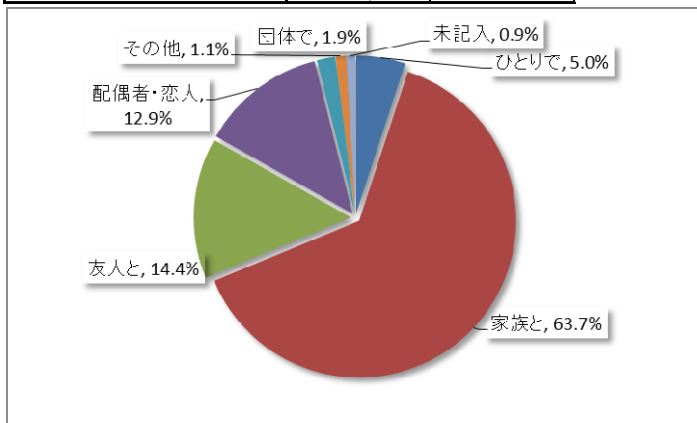


(2) 利用形態

家族利用が 60%以上、同行者との利用が 90%以上になることから、親しい方同士の複数の形態が大多数となります。校外学習シーズンで学校団体が増加する時期や、幼稚園・保育園の遠足シーズン、家族・友人との余暇利用が顕著となる期間などに分かれます。各々の時期に合わせて中核利用者（コア・ユーザー）を絞り込み、コンテンツやPR方法、媒体を適切に選択し、対象層（セグメント）に適合したマーケティング戦略を展開します。

同行者		回答数	構成比
(1)	ひとりで	115	5.0%
(2)	家族と	1,452	63.7%
(3)	友人と	329	14.4%
(4)	配偶者・恋人	294	12.9%
(5)	団体で	43	1.9%
(6)	その他	25	1.1%
	未記入	21	0.9%
合 計		2,279	100.0%

家族での利用は 60%を超えており、同行者ありが 91%以上となる。最近の傾向としては、平日のプラネタリウム・大型映像でカップルやシニア層の利用が増えている。

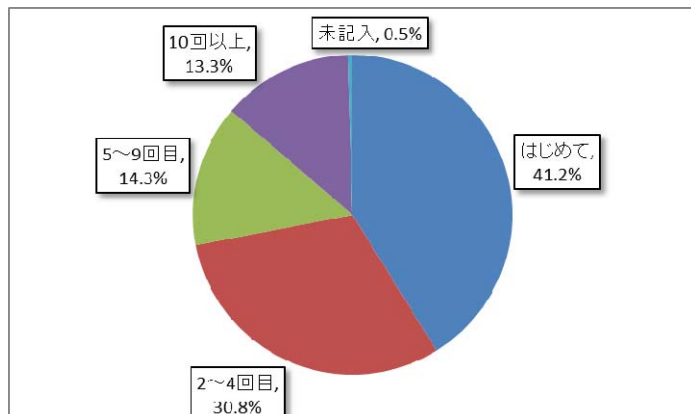


(3) 来館回数

利用者増と共に初度利用者が増える一方、2回目以上は 59.1%と過半数の状況です。展示・プラネタリウムのリニューアルを受け、特に圏域の未利用者呼び込むことに注力し、初度利用者が継続的に増加しています。一度利用した人の定着率は良好で、「10回以上」というような強い絆を持った繰り返し利用者（リピーター）も常に 10%以上あり、類似の科学館・自然史博物館に比べてリピーターが高い比率を占めています。第2次基本計画の地域拠点事業を推進するために、地域の交流と学習の場作りを展開し、圏域住民とのエンゲージメントを高めていくことを目指しています。

来館回数		回答数	構成比
(1)	はじめて	938	41.2%
(2)	2~4回目	702	30.8%
(3)	5~9回目	326	14.3%
(4)	10回以上	302	13.3%
	未記入	11	0.5%
合 計		2,279	100.0%

初度利用者 平成 23 年度 (26.8%) から増加
リピーターが 58.4%で高止まりしている
例年、約 60%がリピーターとなっている。





多摩六都科学館シンボルマーク
(平成5年度の開館時に公募で決定)



多摩六都科学館キャラクター「ペガロク」

©ドワーフ/多摩六都科学館

(平成24年度のリニューアルから採用)



●開館20周年記念イベント(平成26年3月1日)
構成5市のキャラクターによる圏域の魅力の紹介

終わりに

多摩六都科学館は、開館から 24 年目を迎え、地域の科学館として、これまで多くの市民の皆さまに支えていただきましたことを深く感謝をしております。開館当時、小学校の見学などで科学館を訪れてくれた方が、成人して再び科学館をご利用していただける姿に出会えることは、当館が地域に根付いている証としてたいへん励みとなるとともに、大きな喜びでもあります。今後も、よりいっそう地域の生涯学習の推進と文化の向上に資するため、圏域の方々の学習の場として愛されますことを目指して努力いたしてまいります。



●開館 20 周年記念式典（平成 26 年 3 月 1 日）

関連資料

- 1 多摩六都科学館第 2 次基本計画（平成 26 年度～平成 35 年度）ローリングプラン 2016
- 2 多摩六都科学館財政計画
- 3 平成 30 年度多摩六都科学館組合一般会計予算
- 4 平成 29 年度多摩六都科学館指定管理者事業報告書
- 5 平成 30 年度多摩六都科学館指定管理者事業計画書

※ 資料の一部は巻末参考資料と多摩六都科学館組合ホームページに掲載しています。

URL <http://www.tamarokuto-sc.or.jp/>

参考資料 1 <<多摩六都科学館組合の予算>>

平成30年度多摩六都科学館組合一般会計予算						
(歳入)						(単位:千円)
項目 款	本年度 予算額	前年度 予算額	前年度比較増減		備考	
			比較増減額	増減率(%)		
1 分担金 及び負担金	382,000	382,000	0	0.0%		
2 使用料 及び手数料	210	215	△ 5	-2.3%		
3 財産収入	3	3	0	0.0%		
4 寄附金	1	1	0	0.0%		
5 繰入金	60,318	71,621	△ 11,303	-15.8%	主に施設設備補修充当財源を基金 から繰入れ	
6 繰越金	500	500	0	0.0%		
7 諸収入	12	15	△ 3	-20.0%		
歳入合計	443,044	454,355	△ 11,311	-2.5%		
(歳出)						(単位:千円)
項目 款	本年度 予算額	前年度 予算額	前年度比較増減		財源内訳	
			比較増減額	増減率(%)	特定財源	一般財源
1 議会費	1,489	1,489	0	0.0%		1,489
2 総務費	136,309	129,001	7,308	5.7%	44,031	92,278
3 事業費	272,686	291,306	△ 18,620	-6.4%		272,686
4 公債費	31,560	31,559	1	0.0%		31,560
5 予備費	1,000	1,000	0	0.0%		1,000
歳出合計	443,044	454,355	△ 11,311	-2.5%	44,031	399,013

◎歳入・・・組合の収入の86.2%は構成市の負担金である。施設・設備の老朽化に伴う保全・改良措置に係る経費の財源として、基金からの繰入れが13.6%あり財政を圧迫している。

基金の残高（平成30年4月1日）

- 1 財政調整基金 22,462千円
- 2 施設整備基金 53,830千円

この他に、指定管理者からの利用料金還元金収入（平成29年度分）が1,560万円ほど見込まれる。

◎歳出・・・第2款総務費の主なものは人件費約4,600万円、施設設備補修費が4,430万円で、第3款事業費では指定管理者業務委託料2億7,225万円となる。第4款公債費は、駐車場用地費に係る長期借入金の償還金3,149万円となる。なお、総務費の特定財源は、空調設備部分更新工事に充当する施設整備基金繰入金等である。

参考資料 2 <<多摩六都科学館の利用者の推移>>

年度	開館日数 (日)	大人		小人 ※		計 人数(人)	
		人数(人)	割合	人数(人)	割合		
平成5年度	※1	27	16,189	54.8%	13,343	45.2%	29,532
平成6年度		267	96,630	57.5%	71,500	42.5%	168,130
平成7年度		266	68,720	54.9%	56,517	45.1%	125,237
平成8年度		272	59,487	52.5%	53,782	47.5%	113,269
平成9年度		272	55,063	51.6%	51,673	48.4%	106,736
平成10年度		278	54,043	52.3%	49,279	47.7%	103,322
平成11年度		280	51,452	50.9%	49,628	49.1%	101,080
平成12年度	※2	224	44,786	50.5%	43,836	49.5%	88,622
平成13年度		278	60,789	47.5%	67,178	52.5%	127,967
平成14年度		277	65,531	49.9%	65,880	50.1%	131,411
平成15年度		279	74,684	51.4%	70,528	48.6%	145,212
平成16年度		279	68,387	50.2%	67,798	49.8%	136,185
平成17年度		279	74,851	50.2%	74,174	49.8%	149,025
平成18年度		287	73,506	47.2%	82,093	52.8%	155,599
平成19年度	※3	265	62,070	46.1%	72,431	53.9%	134,501
平成20年度		293	63,894	46.0%	74,886	54.0%	138,780
平成21年度	※4	290	62,588	43.2%	82,325	56.8%	144,913
平成22年度	※5	276	70,019	45.3%	84,539	54.7%	154,558
平成23年度	※6	293	74,291	45.0%	90,672	55.0%	164,963
平成24年度		313	92,452	50.9%	89,263	49.1%	181,715
平成25年度		301	101,814	48.7%	107,185	51.3%	208,999
平成26年度		300	100,854	48.9%	105,222	51.1%	206,076
平成27年度		299	118,984	50.1%	118,723	49.9%	237,707
平成28年度		297	125,992	49.7%	127,479	50.3%	253,471
平成29年度		300	120,090	49.3%	123,685	50.7%	243,775

※1 平成5年度は平成6年3月1日から3月31日まで

※2 平成12年10月2日から平成13年1月2日リニューアルのため工事。平成13年1月3日リニューアルオープン

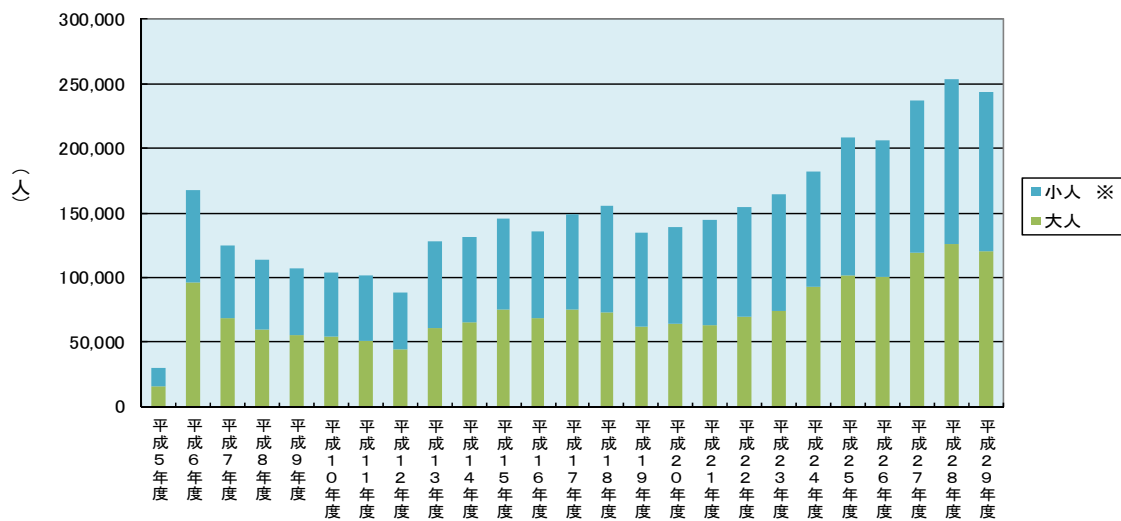
※3 構造計算書調査のため平成19年10月19日から11月22日まで一時休館

※4 平成21年4月から4歳未満利用者も小人にカウント(平成21年度計8,104人)

※5 平成23年3月15日から3月31日まで震災による臨時休館(16日間)

※6 平成23年11月1日～平成24年7月6日 設備更新工事のためプラネタリウムのみ休止

多摩六都科学館利用者数推移



科学館の利用状況（概況） =====

- ①平成 29 年度は前年度に次ぐ 24 万人台の利用者数となり、高い実績をあげている。従来、閑散期となっていた秋・冬季にも、月間 1 万 5 千人以上の安定した集客を挙げられるようになったことと、プラネタリウム・大型映像の観覧者が増加傾向にある。
- ②直営時期（平成 23 年度まで）は大人の利用率が 45%前後であったが、指定管理者導入以降ほぼ 50%に達しており、成人の利用者が年間 5 万人程度増加している。主にシニア向けのコンテンツの拡充と、それに伴う割引策等の効果とみられる。

開館当初は、大人が小人に対して約 10%多かったものの、展示更新直後の平成 13 年度ごろから、小人が過半数を占め、平成 20 年度以降は、小人が 10%ほど多くなっていました。要因としては、①展示更新で採り入れたハンズオン型の展示によって、体験時の体感性や参加感が高まり、子どもに人気が出たこと、②平成 15 年度開始の友の会制度の浸透で、子ども会員の繰り返し利用者（リピーター）が急激に増大したこと、③利用者の低年齢化が進み、乳幼児の利用が増えて小人にカウントされるため——などが挙げられます。平成 24 年度のリニューアル以降は、「子どもの施設」というイメージからの脱却に努め、大人と小人の利用者がほぼ半数ずつとなっています。今後も、地域に根差した運営を進め、地域の交流拠点として生涯学習の推進に向け、幅広い年齢層に応える事業展開を目指します。

参考資料 3 《多摩六都科学館のミッション》

科学館は、開館から 20 年が経過し、さまざまな試行錯誤を経て、中核事業であるプラネタリウムと展示の更新により、新たな学習価値を生み出す体制が整いました。指定管理者による民間のノウハウを生かしたマネジメントにより、複雑な社会状況や地域の課題を見据えた上で、多摩六都科学館の役割や活動理念を明確に打ち立て、これからの 10 年も果敢に挑戦し続ける科学館であるために、第 2 次基本計画を策定しました。基本計画の精髓を文言にしたのが、以下のミッションステートメントになります。

多摩六都科学館は、地域の皆さんをはじめとする様々な方々とともに、誰もが科学を楽しみ、自分たちの世界をもっと知りたいと思える多様な「学びの場」をつくりあげていきます。

そして、多摩六都科学館は、活動の幅を拡げ、皆さんをつなぎ、「地域づくり」に貢献することをめざします。

多摩六都科学館は、多摩六都（小平市・東村山市・清瀬市・東久留米市・西東京市）の 5 市が共同で運営する科学館です。



発行 平成 30 年 4 月

多摩六都科学館組合管理課

- 所在地 〒188-0014 東京都西東京市芝久保町五丁目 10 番 64 号
- 電話番号 TEL 042-469-6982 Fax 042-469-7575
- ホームページ <http://www.tamarokuto-sc.or.jp/>